

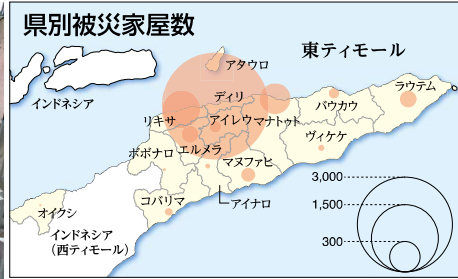
## 東ティモール豪雨災害支援〜コロナ禍での試練〜

トタン屋根を激しく打つ雨音。一向に弱まる気配のない雨足。感電を防ぐため電気は早々に切られ、暗闇の中で息を呑んで耳をそばだてる――。

東ティモールとインドネシア東部周辺で発生した熱帯性低気圧サイクロン・セロージャは、2021年4月4日未明から、両地域で川の氾濫、洪水、土砂崩れといった過去40年で最大といわれる災害を引き起こしました。東ティモールでは32名が死亡、9名が行方不明、3万3000世帯が被災し、680世帯が避難生活を余儀なくされています（2021年5月4日現在）。



4月4日朝のデシリ市内は道路が川に。



円が大きいほど被災した件数が多い。出典：UNOCHA

被災状況の調査を開始しました。古くから付き合いのある現地環境団体ハブラス財団が被災者への炊き出しを始めています。この活動と協力してデシリ県内の被災者へ食料や生活物資を届けました。被災した人びとの中には、豪雨の前からコロナ禍で生計手段を失った家庭も少なくありません。

被災者へ食料や生活物資を届けました。被災した人びとの中には、豪雨の前からコロナ禍で生計手段を失った家庭も少なくありません。



避難所に身を寄せる生後1か月の赤ちゃん。

被害は首都のデシリ県だけではなくコーヒー産地を含む山間部にも広がっています。マウベシ・コーヒー生産者協同組合のあるアイナロ県マウベシ郡では地滑りに巻き込まれ一家5人が犠牲となりました。マウベシから東へ行ったマナウトウト県ラクバル郡では、川の氾濫や地滑りで県道や橋が壊れ、村の人口の6割が被災しているにもかかわらず支援が届かない状況にありました。

豪雨が発生したのは、東ティモールで新型コロナウイルスの市中感染が確認され、首都のデシリ県を含む3県で外出禁止・県外移動禁止の措置がとられてからほぼひと月後でした。政府は30日間の災害事態宣言を出し、緊急救援物資調達のために必要な店舗の営業を認め、人びとの移動に必要な公共交通自動車の営業も再開させましたが、これらは同時に感染拡大にも拍車をかけました。今年1月まで70名程だった累計感染者数は、5月7日現在で3000名に上っています。

東ティモール保健省は浸水した国立医薬品センターをたった2日で復旧させ、洪水から3日後に予定通りワクチンを受け取り、全国2万4000人の最前線で働く人びとにワクチン接種を開始しました。小さな国だからできるこの土壌場の団結に、私たちも山間部被災者の家屋修繕という形で加勢します。

（伊藤淳子）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまのご寄付で実施しています。）

### 目次

- 東ティモール 豪雨災害支援〜コロナ禍での試練…… 1
- レバノン アルサール 学びの機会と暖かな冬を／シリア 困難の中の食糧生産活動…… 2
- パレスチナ ガザ 女性たちの羊を守る／西岸地区 町全体で盛り上げていくために…… 3
- 東ティモール 持続的なコーヒー作りのために／インドネシア 女性たちのさらなる活躍に期待して…… 4
- 葛飾「みんかふえ」 もう少し、踏ん張り時！／スリ兰卡 有機農産物を集めた道の駅／民際教育 夏のオンライン・フィールドワーク 授業準備中…… 5
- フェアトレード エクサグループのスパイスが新登場！スリ兰卡 自然の中で育った力強いブラックペッパー／フェアトレード商品でつながる私たち 新型コロナウイルスや東ティモール豪雨災害による商品の影響…… 6
- 夏におすすめ 手軽で美味しいレシピ／世界フェアトレード・デー・なごや2021 コーヒー・サミットに参加しました／ちょっと寄り道♪フェアトレードな人びと…… 7
- パルシクからのお知らせ…… 8

## ■レバノン アルサール 学びの機会と暖かな冬を

レバノン北東部アルサールでは、シリア難民の子どもたちの4割以上が学校に通っていません。さらに昨年夏には、難民のシリアへの帰還を進めたいレバノン政府によって、5千人が通っていたNGOが運営する教育センターの閉鎖が決まりました。そこでパルシックは、アルサールの学校1校と協力し、シリア人の小学校の子ども500人が学べる学校を昨年秋から開始しました。

新型コロナウイルスの感染拡大で授業はオンラインに切り替えられ、子どもたちは、親のスマートフォン等を使って授業に出席しています。インターネット用のクーポンを配布するなどして、できる限り多くの子どもたちが出席できるようにしていますが、子どもが複数いる家庭では一度に2つの授業に参加できない、そもそもスマートフォンを持っていない等、様々な問題があります。今後はそうした課題に対しても、子どもたちが教育



学年の開始時に教材を受けとりうれしそうな生徒。

を受け続けられるように工夫をしています。

アルサールは標高1500mに位置し、冬は数十センチの雪も積もる地域です。今シーズンもパルシックでは越冬支援の寄付キャンペーンを実施し、160世帯(約800人)に対し、冬の2か月間灯油を配布しました。寒い夜にぐっすり寝ることで、子どもたちも授業に集中できました。(風間)

(この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからの寄付で実施しています。)

### ご報告

#### バイルート爆発被災者支援

昨年8月に発生したバイルート大規模爆発の影響はまだ続いており、未だに大きく破損した建物や、補修途中の建物が目立ちます。パルシックは、皆さまからのご寄付とジャパン・プラットフォームの助成で、被災した1500世帯に対し食糧バスケットを配布し、14世帯に家屋補修を行いました。看護師をしていたという女性は、失業中で借金をして窓を修理したそうです。今回の支援で後回しになっていた割がれた壁や壊れた棚を修理することができました。



爆風と衝撃波で壊れたキッチンのフロアキャビネットに取り付けられた真新しい扉。

## ■シリア 困難の中の食糧生産活動

シリア国内の新型コロナウイルスの状況は2020年の冬から現在に至るまで、大きな感染の波はなく、数字だけ見るとうまく抑え込んでいるかのように見えます。しかし、現地の情報では、病床は既にひっ迫し、実際には政府の発表以上の感染者がいるとも言われています。

昨年、ホムス県とダマスカス郊外県で開始した農業支援では、冬の間も食糧が生産できるように、10月頃に冬野菜の種(ひよこ豆、グリーンピース、ラディッシュ、ネギ、レタス、コリアンダーなど)を配布しました。

ダマスカス郊外県では養鶏の支援も行っています。日照時間が短くなると卵を産まない傾向があるため冬の時期は産卵がありませんでしたが、2月下旬になって卵を産み始め、雛も孵り始めました。コロナの影響であまり外に出られず、仕事もない状況で、雛が成長して産卵するようになれば卵の生産量も増えるため、



ネギやレタスの収穫の様子。

### 人びとの声

ハムダさん世帯は、これまで毎日平均7個の卵を収穫して、4個は自分たちで食べ、残りはお近所と分け合う等していました。これからは、毎日3つは売るために取っておき、売った収入を鶏の餌の購入費に充てるそうです。長期の紛争により物価上昇が激しく、卵の値段が1年で約3倍(12個入が150円から現在470円ほど)にもなっていることもあり、ハムダさんから参加者からは卵の自給自足ができることはとても嬉しいという声を多く聞きました。



アパートの屋上を利用して鶏を飼っている世帯。

食糧や収入を得る可能性が広がりとでもうれしいという声を多くの参加者から聞きました。ホムス県では野菜のほかに現在小麦を育てています。シリアでは、主食のパンに使う小麦が不足しているため、参加者は6月頃の収穫に向けて毎日畑の手入れをし、収穫を楽しみにしています。(大野木)

(この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからの寄付で実施しています。)

## ■ガザ 女性たちの羊を守る

イスラエルの軍事封鎖が続くパレスチナのガザ地区。皮肉にも、この封鎖によって、パンデミック当初のガザは感染拡大を免れていましたが、2020年の夏以降、徐々に感染者数が増加。2021年4月末時点では、1日の死者数が10名を超える事態となっています。

新型コロナウイルスの影響は、パルシツクが支援する女性たちの酪農事業にも及んでいます。一時は、県をまたいだ移動が制限され、畜産市場も閉鎖。獣医が

### 人びとの声

サナー・アル・ラツハムさん  
(ハンユニス県キザンラシユワーン村)

感染拡大によるロックダウンで、私たちは途方に暮れ、もうグループを解散しなければならぬかもしれない、という思いが心をよぎりました。しかし弱い時こそ、お互いに助け合って強くなることができます。私たちは

グループとして畜産を続けることを決めました。

私は、おしゃべりをしたり、嬉しい時も悲しい時もお互いに手を取り合ったりして支え合える、友達のようなメンバーと一緒にプロジェクト



羊の世話をするサナーさん。

ができて幸せです。



クラウドファンディングによる支援品をガザの女性たちに届けました。

羊小屋を訪問できなくなり、市場で羊を売ったり、薬を購入したりすることも難しくなりました。病気で弱り、死んでしまう羊が相次ぎ、女性たちの収入は大きく減少しました。

こうした状況を受け、2020年12月〜2021年1月、羊の健康と女性たちの生活を守るため、クラウドファンディングに挑戦しました。計174名の方から、230万円を超えるご寄付をいただき、羊の医薬品や衛生用品セット、羊小屋用具を28の女性グループに届けることができました。感染症との闘いは日本も例外ではなく、コロナ禍は社会の分断を深めたともいわれています。そんな中でも、ガザの人びとに思いを寄せ、温かいご支援をくださった方たちの存在は、私たちに大きな希望を与えてくれました。

(橋村)

(この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

## ■西岸地区 町全体で盛り上げていくために

ナブルス県北アシーラでのゴミ分別とリサイクルを通した循環型社会づくり事業は、3年目を迎えています。コロナ禍では移動制限や物流停止で、活動が遅々として進まない状況が続きましたが、事業参加者の広がりや持続可能なリサイクル方法確立のための道筋が少しずつ見えってきました。

生ゴミ堆肥化が軌道に乗り始める中、事業協力者へのインタビュをSNSで連載すると、堆肥の問い合わせやゴミ分別に参加したいという声寄せられるようになりました。今年は分別エリアを家庭内や学校、オフィス内にも広げ、ゴミ拾いイベントの実施やオンラインでの情報発信によって、住民一人ひとりの実践を促し、事業を盛り上げていきます。

作りに生かし、温室で採れた有機野菜を町中の八百屋で販売、事業のプロモーションにも繋がっています。



堆肥舎での堆肥作り。

また、課題の1つであったコストのかかる紙ゴミのリサイクルの業者委託を見直し、地域内で実践可能な燃料化実験にも着手しました。今後は、堆肥販売を本格化し、住民の環境意識の醸成を図るとともに、ゴミ回収や堆肥作りにかかる費用を賄い、経済的にも息の長い活動が続けられるような基盤づくりを目指します。(関口)

(この事業は地球環境基金の助成と皆さまからのご寄付により実施しています。)

### ご報告

#### 汚水が流れ込む学校に下水路を整備

昨年8月、パルシツクは、西岸地区北部の農村において、長年近隣のイスラエル入植地から校区内に流れ込む生活排水の問題に悩まされてきた公立学校に、衛生環境に配慮したトンネル型の下水路整備のための施工費用を募る寄付キャンペーンを行いました。

3か月間で72万円のご寄付をいただき、また「連合・愛のキャンパ」中央助成、アーユス「街の灯」によるご支援をいただき、無事に下水路を整備することができました。皆さまのご支援に、心より感謝申し上げます。



下水路整備前後

下水路整備前後の校庭の様子。

■東ティモール 持続的なコーヒー作りのために

東ティモールのコーヒー畑は老朽化が進み、抜本的な改善が喫緊の課題となっているため、2019年11月からアイナロ県マウベシ郡のマウベシ・コーヒー生産者協同組合（ココマウ）と共にコーヒー畑の改善事業に取り組んでいます。ココマウとは2002年からアラビカコーヒーのフェアトレードで関係を築いてきました。



集落内で協力し合い、等高線テラスを整えている様子（リタ集落）。斜面を段々畑に整え排水性を抑止、土壌に養分を溜める効果があります。

今年に入って、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域間の移動が制限され、日本人駐在員の事業地への移動も禁止されていますが、マウベシ事務所の現地スタッフが毎日コーヒー農家の元を訪れ事業を継続しています。

1年目は16集落31世帯がモデル農家となつて活動を始めました。コーヒー栽培の専門家のアドバイスを受け、状態が異なるそれぞれの圃場に合わせて台きりや整地、等高線テラス作りなどの畑の改善の研修を各集落で実施してきました。

2年目にあたる今年は新たに89世帯が参加し、合計120世帯と共に活動を進めています。マウベシ事務所のフィールドスタッフも5名から8名に増員し圃場での調査を進め、それぞれの畑に合わせて改善方法を提案、実施しています。1年目に作った苗床で種から育てたコーヒーの木も順調に大きくなり、今後植え替えを進めることで畑の若返りを進めていきます。同時にそこで得た知識や技術を実践し普及させていくことのできる若い人材を各集落で育て、持続的に人びとの生活に豊かさとして生産者としての誇りをもたらしていくことができるよう取り組んでいきます。

（工藤竜彦）

（この事業はJICA草の根技術協力事業パートナー型の支援と皆さまからのご寄付で実施しています。）

■インドネシア 女性たちのさらなる活躍に期待して

2018年9月末、インドネシアのラウエシ島で発生した震災被害を受けて、パルシックが緊急支援で現地入りしたのは翌月の10月でした。食糧などの配布から始め、その後仮設住宅建設を行いました。子どもたちには安心して遊べる居場所活動を行いました。そして、2020年1月から女性の生計支援を本格的に開始しました。

軽食やお菓子を作り販売することで収入を得られるように、食材や調理器具を配布し、研修も行いました。ガス代などを経費に計上することを初めて知るなど、研修から得たものは大きかったようです。12月からは焼き菓子や揚げ菓子を生産する女性たちを中心に共同生産所を作りま



事業地のナモ村で行った販売管理研修の様子。

人びとの声

トキマさん（シギ県カラワナ村）

ガドガド（温野菜のピーナツソース和え）と野菜の販売をしています。2018年の震災以前から販売をしています。震災後は7か月ほど商売ができず大変でした。今では生計支援の勉強会で帳簿の付け方やビジネスについて学ぶ機会を得たほか、養鶏の支援も受け感謝しています。今は断食月中なので、ガドガドの方はなかなか売れませんが、代わりに野菜が売れています。片方がだ



仕事の合間に話をしてくださったトキマさん。

めでももう片方から収入を得られるようにしておくのが、商売の大事な秘訣のひとつですね。

した。とてもやる気のある女性たちで、インスタグラムなどで宣伝していると聞き大変驚きました。試食をしたところ、手が止まらないぐらい非常においしかったです。また、養鶏や野菜栽培も始め、収穫物を販売したり、家庭で消費したりすることにより、世帯の家計を抑え収入を増やす試みも行っています。

スラウエシ島におけるパルシックの事業は7月に終わりを迎えます。私たちが事業を終えても、女性たちが継続的かつ安定的に収入を得られるように、最後までサポートしていきます。

（飯田彰・松村多悠子）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

■葛飾「みんなふえ」 もう少し、踏ん張り時！

4月25日、東京に緊急事態宣言が再発令され、変異株の脅威もありカフェも休止することにしました。こども食堂は2020年12月の医療ひっ迫宣言以後、休止したままです。代わりに夕食用のお弁当配付、冬休み・春休みはお昼用のお弁当を配付しました。また11月からは月2回のフードパントリー（食材配付）を開始しました。4月からは週1回に回数を増やしています。

その場のニーズに迅速に対応できるのはNPOの強みではありますが、感染状況に翻弄され続けたまま1年以上経過して来ましたが、子どもたちのための外遊びなどを企画しても、やむを得ず急ぎよ中止し、感染対策をした上で形を変えて実施するなど、工夫を続けています。



お弁当と図書カードを配ったお子さんからお礼のお花をいただきました。



食材配付の様子。ここでの会話が楽しみです、とおっしゃってください方も。

4月は進級の季節。子どもたちと直接会う機会はすっかり減ってしまいました。が、せめてものお祝いにと、「皆さん、お子さまの成長を応援してくださいませ」とメッセージを添えて、図書カードを子どもたちに配りました。「子どもたち、すごく喜んでいました！」と保護者の方。実は元々、その図書カードで文具や本をボランティアさんと一緒に買いに行く企画を考えていたのですが、それはまた次回のお楽しみです。

昨年後半から食材の支援を希望される利用者が増えました。食材配付時に交わす何気ない会話の中で、ふと「パート収入が減ってしまい、どうやって日々やり繰りすればいいのか…」と漏らす方もおり、生活や子どもに関する行政による支援の情報を発信しています。

（大坂智美）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

■スリランカ 有機農産物を集めた道の駅

デニヤヤでは小規模有機栽培農家グループ・エクサと一緒に、エコツーリズム開発事業を進めてきました。しかし、2019年度4月にはコロナ禍での連続爆破事件、2020年初頭からは新型コロナウイルスのパンデミックと、エコツアーの主なターゲットである外国人観光客が激減しています。そんな中、昨年からはスリランカ国内の観光客にターゲットを移し、目玉の1つとして、デニヤヤ事務所の一部を、地域の特産物を集めた「道の駅」のようなスペースにしました。エクサのメンバーが作る有機野菜、果物、

スパイス、そしてコンポストセンターの牛の牛乳を使った乳製品を並べています。残念ながら新型コロナウイルスが収束せず、国内観光客もほとんど来ていませんが、デニヤヤの町の人たちには大変好評を得ています。



エクサメンバーの茶畑に混植されている、パパイア、サワーナップなどの果物（右側）、カトルムルンガやつるむらさきなどの葉野菜（左側）など季節によって並ぶものが変わります。

■国際教育 夏のオンライン・フィールドワーク授業の準備中

新型コロナウイルスの影響で、マレーシアなど国際教育の事業地への渡航が困難な状態が続く中、昨冬からオンライン・フィールドワーク用の動画教材の作成を進めてきました。今夏は、複数の大学からご依頼をいただき、

ベナンの講師やファシリテーターともオンライン会議を重ねています。初めての試みで難しさもありますが、参加学生にとって意義のある実習となるよう、準備を進めています。

昨夏以来、事業地の駐在員や東京事務所との事業担当が講義をするオンライン授業への問合せも増えています。移動することが難しい時代にあっても、パルシクだからこそ得られる各事業地の生の声を日本の若い人たちに届けていきたいと思っています。

（西森光子）

（この事業は日本万国博覧会記念基金事業助成金の助成を受けて実施しています。）

マレーシアを学ぶ動画教材から。



ベナンの講師やファシリテーター

自然の中で育った  
力強いブラックペッパー



エクサメンバーの有機茶畑で立派に育つ胡椒の木 (右)



エクサグループのスパイスが新登場!

デニヤヤのエクサ (小規模有機栽培茶農家グループ) メンバーの多くは、有機茶畑のシェードツリーとして、または自家消費用として、スパイスの木々を植えています。カルダモン、シナモン、クローブ……この豊富な種類の有機スパイスを日本へ輸出できないかとエクサメンバーとともにこの何年か考えてきました。いよいよ、第1弾としてブラックペッパーの輸出が決まりました! まずは2021年秋ころのテスト販売に向け、現在、パッケージのデザインや輸入に必要な手続きを進めています。

ここ数年、デニヤヤの産地では、洪水があったと思うと干ばつが起り、目まぐるしく自然災害の影響を受け、茶葉の生産量が思うように上がりません。苦勞して有機栽培をしているにも関わらず、メンバーの生計の向上に繋がっていない現状があります。収入源の多角化としても、スパイスの商品化が期待されています。

豊かな自然の中で育った力強いブラックペッパーを、日本の皆さんにお届けできる日まで、どうぞ楽しみにお待ちください!

フェアトレード商品でつながる私たち

新型コロナウイルスや東ティモール豪雨災害による商品への影響



コーヒー



人との間隔をあげて  
コーヒー生豆選別作業

新型コロナウイルス感染症拡大のなか迎えた昨年のコーヒー収穫期でしたが、山間部のコカマウの活動には大きな影響はなく、農家さんたちの心配ごとは「こんな状況で、日本の皆さんはコーヒーを買ってくれるのか?」というものでした。

首都ディリの二次加工場では、計量や選別作業にたくさんの人が集まるため、マスクの着用を義務付け、作業する人と人との間隔をあげるなど、感染対策をとりました。通常は1日60人が作業をするコーヒー豆の選別テーブルに、30人までと制限を設けたため選別作業に時間がかかりましたが、無事にコーヒーは出荷され、年間を通して、日本では美味しいコーヒーを提供することができました。

これから始まる2021年のコーヒー収穫期も、新型コロナウイルスの感染拡大の中で迎えます。4月に発生した豪雨による地滑りで農家さんの自宅が壊れたり、一部のコーヒー畑でシェードツリーが倒れたり、といった被害からの復旧も同時進行です。不安は尽きませんが、コーヒーの実のつきはよく、6月には収穫が始まる予定です。

ハーブティー



「ハーブのある暮らし」に登場した女性グループ「ハノイン・パ・オイン」のドミンガスさんたち

アロマ・ティモールは1月に、EARTH CAMP\*のオンラインスタディツアー「ハーブのある暮らし」でご紹介する機会を得ました。5月に予定していた日本への輸出準備のさなかに豪雨に見舞われ、女性たちのハーブ園の一部が流されるなど被害に遭っています。雨が続きハーブの乾燥が思うように進みませんが、7月には出荷ができる見込みです。

\*外務省・JICA・JANICによる国際交流キャンペーン



紅茶

スリランカでは農業、特に紅茶産業は新型コロナ下でも外出規制などの対象とならず、エクサは生茶葉の栽培、出荷を続けています。一方、茶葉加工場では、この間、感染を恐れて働きに来る人が激減しています。工場側が感染拡大防止対策として減らした人数さえ集まらないほどで、稼働率が大幅に下がっています。パルシクの輸入も遅れており、取り扱い商品に一部欠品が出てしまっていますが、8月頃の再入荷に向けて準備を進めています。

リサイクルエコバッグ

着なくなったサリーのご寄付をリメイクして、女性たちの手で作られているリサイクルサリー・エコバッグ。古着サリーの主な回収方法は、コロンボの行政省庁に置いた寄付箱と、個人や企業からの寄付でした。2019年4月におきた連続爆発テロ事件後、安全対策で寄付箱は撤去せざるを得ず、2020年以降は新型コロナの感染症拡大防止で古着サリーの寄付の連絡が減りました。そのため、材料が不足し生産が滞っています。そこで、市販のコットン生地とサリーの端切れを使った新しい商品づくりを始めてくれた女性たち。新製品が日本に入ってくるのももう少し!?



リサイクルサリーをつくる女性たち

パルシクの  
フェアトレード商品

\*価格は税込です

「商品の生産、流通、消費などが、市場の価格だけに依存するのではなく、人間的な交流と信用に基づく」という取引のかたちを目指して、直接的な交流、交易を重視しています。

見た目もきれいな 2層の紅茶ゼリー

材料 スリランカ産 有機ルフナ紅茶  
ゼラチン250g×2  
水25ml  
お好みの量のミルクと砂糖

オススメ



作り方：

- ①ゼラチン250gに水25mlを入れてスプーンで混ぜ、5分置く。
- ②ティーバッグ3個に400mlの熱湯を注ぎ、濃い目の紅茶を作る。
- ③②を半分に分け、片方にミルクと砂糖を入れ濃厚なミルクティーを作る。
- ④①に③のミルクティーを少しずつ入れ、ゼラチンが溶けるようにかき混ぜる。余熱が取れたら冷蔵庫で冷やしてミルクティーゼリーの出来上がり。



⑤③で半分に分けた紅茶にゼラチン250gを溶かし、固まったミルクティーゼリーの上に流し込み冷蔵庫で冷やすと、2層の紅茶ゼリーの完成！

ワンポイント♪

ミルクティーの方に砂糖を加えることで、甘さと香りがマッチして美味しく仕上がります。

夏におすすめ  
手軽で美味しいレシピ

暑さを吹き飛ばす 冷たいハーブティー

お腹に優しいアボカドと、気分をすっきりさせてくれるライムが、これからの季節におすすめです。



使用するハーブティー  
アロマ・ティモール  
有機アボカドリーフ&  
有機ライムリーフ

作り方：

1人分につきティースプーン山盛2杯のハーブに熱湯を注ぎ、フタをして5分以上蒸らす。茶葉を取り除き、粗熱が取れたら冷蔵庫へ。

アレンジレシピ

簡単水出しハーブティー

上記と同量のハーブを一晩水につける。先に少しお湯を注いでも◎。お茶パックにハーブを入れて水筒の中で水出しをすると、外出先でも簡単に美味しい水出しハーブティーを楽しめます♪



大城研司さん

継続してドリップコーヒーや紅茶を共同購入してくださっている大城さん。コロナ禍でも地域で様々な活動を精力的にしておられ、今回お話を伺いました。

山口県を拠点に市民活動に関わっています。東ティモールとの繋がりには1990年頃からで、東ティモールの主権回復を支援する「東ティモールに自由を！全国協議会」に参加したことがきっかけです。亡命した東ティモール人による講演の開催や、独立後の東ティモールと山口県の下関・宇部の子どもたちとの絵画交流の活動などをしてきました。パルシクのコーヒーをイベントで出すようになったのは2011年頃。始めはドリップコーヒーを提供していましたが、徐々にコーヒーメーカーを入手したり、提供のバリエーションも増えました。

昨年はコロナの影響でイベントの機会がほとんどなくなってしまいましたが、個人的に並行して活動している「フードバンク」で、スリランカや他の滞日外国人支援の一環として、パルシクの紅茶を仕入れて提供しました。紅茶は結構人気でしたよ。

東ティモール独立後からずっとコーヒーを飲んでいますが、本当に美味しくなりましたね。コーヒーも紅茶も大好きで、家でも職場でも常備していつも美味しく憩いの時間をいただいています。

イベントにて (右端が大城さん)



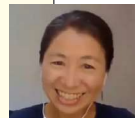
5月  
8日

世界フェアトレード・デー・なごや2021  
コーヒー・サミットに参加しました

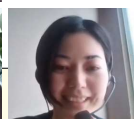
今年で12年目を迎える世界フェアトレードデーなごやのイベントに、オンラインで登壇しました。会場では、感染症対策を取りながら個性豊かな焙煎店やフェアトレードショップ等が出店し、同時にオンラインでも終日様々なイベントが発信されました。パルシクは、東ティモール現地事務所代表の伊藤淳子が登壇し、コロナ禍での豪雨被害状況と現地での活動、生産者の声をお伝えしました。改めて顔の見える関係で継続的に繋がっているフェアトレードの強みを感じる、参加者の皆さんと一緒に未来を考える機会となりました。



コーヒー畑  
改善作業を継続



オンライン  
登壇の様子



## 主催イベント・登壇・オンライン授業開催報告 (2020年12月～2021年6月)

2020年度後半以降も、イベントや教育プログラムはすべてオンラインで開催しました。イベントでは、現地からの報告、他団体と共催によるオンラインツアーなどを通じて、現場から最新の情報をお伝えし、現場をととても身近に感じられると好評をい

たきました。スタッフもオンライン開催の運営ノウハウを身につけつつあり、今後はより充実した、参加して下さるみなさまとともに、スタッフも学びになるコンテンツを計画しています。

### ●主催イベント・ツアー

12月11日	EARTH CAMPのスタディツアー in スリランカ
1月31日	EARTH CAMPメインイベント スタディツアー in 東ティモール ハーブのある暮らし
3月25日	シリア内戦から10年 第1回「私の好きなシリア～砂漠、スーク、農村～」
4月15日	シリア内戦から10年 第2回「故郷シリアを思うとき 難民となり、生きる人々は今」
4月25日	クラウドファンディング報告会「私の名前はタグリード 羊を守り、ガザの女性の暮らしを守りたい」
5月20日	空爆の続くガザから 緊急集会
5月27日	シリア内戦から10年 第3回「未来へ、種を蒔く～シリアで生きる人びと～」

### ▼「ハーブのある暮らし」マウベシから



### ▼「私の好きなシリア」登壇者



### ●登壇

5月8日	なごやフェアトレード・デー コーヒーサミット
6月11日	聖心女子大学 フェアトレード勉強会

### ●オンライン教育プログラム実施

7月9日	文教大学 「パルシックの活動と仕事内容」
7月27日	京都産業大学 「パルシックの活動と仕事内容」
8月3日	成田国際高校 「奇跡の島国 東ティモール」

成田国際高校と東ティモールのつないでのオンライン国際理解セミナーの様子



10月27日	敬愛大学 「世界を知るーマレーシアの多文化社会」
11月12日	専修大学 「国際協力 NGO の活動～スリランカ」
12月2日	名古屋学院大学 「東ティモールの国づくりに寄り添って20年」
12月23日	文教大学 「パルシックが各地で実施する事業から」
5月7日	箕面自由学園高校 「シリア・レポート」

## パルシック サポーターを 募集しています

パルシックの活動に参加したいけれど何をしたら良いかわからない、時間がとれなくてボランティアに参加できない、という方はぜひサポーターになってパルシックを支えてください。

月々500円からのサポーターで、パルシックの民際協力・フェアトレードの各事業地での活動に参加しませんか。

### ▶サポーター会費 サポーター会費は寄付金控除の対象となります。

- 月々500円コース  
(月払いまたは1年分6,000円一括払い)
- 月々1,000円コース  
(月払いまたは1年分12,000円一括払い)

### ▶お支払方法

1. クレジットカード (自動決済あり)
2. 銀行振込/郵便振替 (1年分一括払い、自動決済なし)



サポーター  
募集ページ

## 皆さまのご支援によって支えられています

### パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

#### 年会費

会員：10,000円  
賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

### ご寄付の お願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地を指定してご寄付いただくこともできます。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることができます。

#### ●クレジットカードでの寄付 (Webサイトより)

<https://www.parcic.org/donation/donate/>

#### ●郵便局からの寄付

郵便振替口座：00140-8-536957  
口座名義：パルシック

#### ●銀行からの寄付

三井住友銀行 神田支店 (普) 2384136  
口座名義：特定非営利活動法人パルシック



クレジットカード  
寄付 QRコード

※銀行からお振り込みの際は、  
ご住所とお名前をご一報ください。